

佐渡島における国際観光交流人口拡大による地域活性化への可能性調査（その2）

特定非営利活動法人新潟県対外科学技術交流協会 平田敏彦

1. これまでの研究の経緯

当協会では、平成15年度に（社）北陸建設弘済会の第9回「北陸地域の活性化に関する研究助成」を受けて、「佐渡島における国際観光交流人口の拡大による地域活性化への可能性調査」を実施した。調査内容は、佐渡の観光資源及び観光客の動態を整理した上で、佐渡への観光旅行の経験のある外国人に、佐渡の観光資源やサービス等に関するアンケート調査を実施し、その結果をとりまとめた。

また平成17年度には、（財）自治体国際化協会の助成研究によって、当協会と黒龍江大学の観光学の専門家、及び黒龍江省の観光行政担当者とのプロジェクトチームによる、「新潟県と黒龍江省の国際観光交流促進のあり方に関する日中共同研究」を行い、黒龍江省のプロジェクトメンバーとともに佐渡観光についての現地調査を行っている。

2. 本研究の目的

本研究は、外国人の目から見た佐渡島の国際観光交流に関する具体的な課題と、今後の可能性を探ることを目的として、新潟県在住の外国人留学生に、佐渡島への観光モニターツアーに参加していただき、その結果報告を兼ねた、国際観光に関するフォーラムを実施することである。

3. 研究の概要

3-1 外国人留学生による観光モニターツアーの実施

以下に示す手順によって、3組の留学生グループを選定し、2泊3日のモニターツアーに参加していただいた。

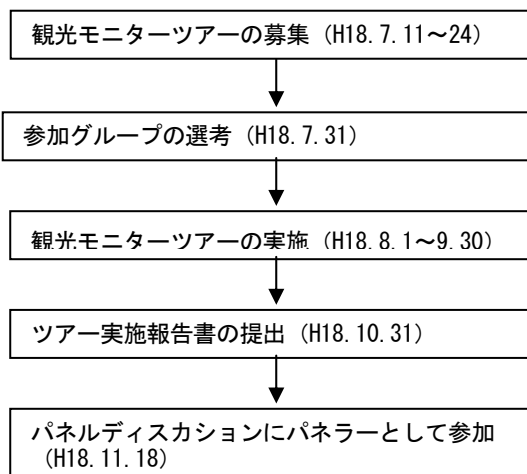


図1 外国人留学生観光モニターツアーの実施フロー

3-2 国際観光交流に関するフォーラム（講演会並びにパネルディスカッション）の開催

【開催概要】

日時・場所：平成18年11月18日 14:00~17:00
技術士センター8F

（その1）基調講演

「国際観光交流とまちづくり」

立教大学観光学部 溝尾良隆教授

（その2）パネルディスカッション

「佐渡島における国際観光交流の可能性」

パネラー：佐渡市産業観光部長 川島雄一郎氏

外国人留学生 バロリ・ブレンディ氏

（アルバニア出身）

ニオマン・ウィナヤ氏

（インドネシア出身）

張 劍宏氏（中国出身）

コメンテーター：立教大学観光学部 溝尾良隆教授

進行役：NPO 法人新潟県対外科学技術交流協会理事
片岡廣夫氏



写真1 国際観光フォーラムの様子



写真2 フォーラム参加者

1) 基調講演

＜国際観光交流とまちづくり＞



立教大学観光学部
溝尾良隆教授

(1) 国際観光とは

国際観光には、日本人の海外旅行（アウトバウンド）と訪日外国人旅行（インバウンド）双方がをいうが、最近日本はインバウンドに力を入れている。本来は、バランスの取れた双方向での行き来が重要。

(2) 小泉内閣の観光立国宣言ーインバウンド観光の促進ーの背景

17年前はアメリカからのバッシングを受けて、

黒字減らしのために、アウトバウンドに力を入れた。今度は景気が悪くなったのでインバウンドで経済の活性化を期待するというのは安易過ぎる。しかし、国の施策として「観光」という言葉が出たのは画期的で、自治体でも観光重視の施策をとり始めたのは喜ばしいことである。

(3) インバウンド観光促進における日本の課題
日本は「遠くて、高い」を言い訳にしている。

魅力があれば関係ない。

高い空港使用料、ビザの解禁を渋る政府、検疫・入管・税関要員の不足、歓迎しない旅館や観光地などの課題がある。

(4) 国際観光への地域の対応

- ・国際交流に重点を置く…異文化交流、アジアとの交流、地域間交流、個人交流、コンベンション
- ・ホーム・ステイとホーム・ビジットの受け入れ
- ・ハンディキャップ（外国人観光者を含む）の人を暖かく迎え入れる。安心して移動できる環境づくり。

- ・旅行業者も旅館や自治体、住民も、外国人観光客をもっと積極的に受け入れるホスピタリティが必要。

- ・標識の充実、両替所を増やす、旅館のシステム改善、ボランティアガイドの育成など。

(5) 新潟県のインバウンド観光

- ・地域の特性を活かす（雪、スキー、温泉、農業、新幹線など）。

- ・外国との地域間交流のリストアップ（姉妹都市交流など）

- ・オリジナル・テーマでのコンベンションの開催
- ・自治体と住民による協働のまちづくりをウリにする…発展途上国からの視察需要は高い。

(6) まちづくりへの取り組み

- ・観光の視点の導入…外の目と内の目のやりとり（見られることを意識することが大切）

- ・生活する住民の幸せを第一に考えた、まちづくりの目標を立てる。

- ・移動が容易な公共交通機関の充実

- ・楽しく・わかりやすく・快適なまちを創る…ランドマーク、ディストリクト、エッジ、ノード、

パス

- ・コンパクトな凝集性のあるまち
- ・優れた自然・文化をいかす。
- ・景観法の活用・・・日本の素晴らしい「地」にふさわしい「図」を創造する。

(7) 住民参加のまちづくり

- ・若者迎合の観光地づくりやCMをやめる。・・・個性化、多様化
- ・厳しい自治体の財政状況の中での、元気な高齢者の活用

2) パネルディスカッション

＜外国人の目から見た佐渡国際観光の課題と可能性＞

進行役：片岡廣夫氏

NPO 法人新潟県対外
科学技術協会理事



パネリスト：

佐渡市産業観光部
部長 川島雄一郎氏



外国人留学生グループ1 (国籍：アルバニア)

バロリ・ブレンディ氏
ツアー参加者：
妻と子供の3人



外国人留学生グループ2 (国籍：インドネシア)

ニオマン・ウィナヤ氏
ツアー参加者：
友人4名
(他にブラジル人3名)



外国人留学生グループ3 (国籍：中国)

張 劍宏氏
ツアー参加者：
妻と2人



(1) 佐渡市産業観光部 部長 川島雄一郎氏

・佐渡への外国人観光客はこれまで2,000人/年程度で推移してきたが、H17年度は6,000人/年と急増している。

・現在までにターミナルにインフォメーションセンターを設置したり、看板の改修や多言語パンフレットの作成などを進めている。

・相川において、佐渡金山を訪れた観光客を、通過させないで相川の町に留まってもらえるような、魅力ある観光まちづくりを進めようという気運が高まってきている。

・今後、国際観光への取り組みも、本日のご意見も参考にして、できることから実行していきたいと考えている。

(2) 外国人留学生 バロリ・ブレンディ氏 (アルバニア出身)

・Tourist Information Desk と表示してあっても全く英語が通じない。せめて観光案内所には英語のわかる職員を置くべきではないか。

・自家用車で移動したが、案内看板がわかりにくい。カーフェリー料金が高い。

・料理は大変満足したが、料理の説明が欲しかった。

・ホテルの浴室の入り口にかかっている男と女のサインは外国人には判りにくい、英語で絵の下に文字表示がほしい。

・日本中でここでしか見られないトキの見せ方や展示は、入場料を取るのだからもう少し工夫して欲しい。

・佐渡金山の案内や展示は一番良くできていた。

・大自然や日本の古い歴史文化、そして親切な人たちに触れることができ、ほんとうにリフレッシュできた。

(3) 外国人留学生 ニオマン・ウィナヤ氏 (インドネシア出身)

・寺泊から赤泊にフェリーで渡った。赤泊ではボランティアガイドに出会って、色々な所を案内してもらって助かった。特に食事する所は事前の情報あまり無かったので役に立った。

・佐渡の食事はおいしいが、外国人向けに英語の

情報案内が欲しいことと、メニューに英語訳があると良い。

- ・小木周辺をレンタサイクルで回ったが、結構楽しめて良かった。
- ・佐渡は美しい風景を生かしたエコツーリズムのポテンシャルが高い→滞在型観光。
- ・外国人に情報を伝える手段が不足している。

(4) 外国人留学生 張 剣宏氏 (中国出身)

- ・公共交通のバスを使って移動したが、バス停が佐渡金山やトキの森公園の近くになく、20~45分も歩かなければならなかった。外国人の個人旅行者のためには、もう少し観光地へのアクセスに対して公共交通の利便性を高めてもらいたい。
- ・佐渡百選という表示があるが、どこへ行ってよいか良くわからなかった。
- ・佐渡の海辺の景観や農村風景は素晴らしい。これは外国人にとって大きな魅力だ。
- ・ただ、自然の景観だけでは何となく寂しい感じがする場所もあるので、人工景観と組み合わせで調和した景観を創造することが望ましいと感じた。

(5) コメンテーター 溝尾良隆氏

- ・観光に対する外部環境が恵まれていたために(佐渡島自体が観光ブランドになっていた)、あまり努力しなくても観光客が増え続けた時代があった。
- ・航空運賃の自由化以来、佐渡は関東圏の人々にとっては、北海道や沖縄との競合になり、価格競争で不利になってきている。
- ・今後、数の追求は難しくなる。例えば「トキが棲める島」ということで、環境に優れ、歴史文化も奥深い島として、滞在日数を増やす努力にシフトする方が良いかも知れない。
- ・東京の旅行代理店に振り回されることなく、佐渡の魅力を着実に作りあげていく努力が必要である。

4. まとめ

4-1 今回の外国人留学生の佐渡観光に関する一致した意見

- ・観光案内所と佐渡汽船内、外国人が多く宿泊するホテルでは英語のわかる職員を置くべきである。

・わかりやすく、できるだけ統一された英語表示のある案内板の設置が望ましい。

・佐渡では美しい自然と、日本の古い歴史文化を体験できるエコツーリズムの導入が適している。

また、日常を離れてリフレッシュできる癒し効果のポテンシャルが高い。

・佐渡の良さを知る外国人はほとんどいない。外国人に対する観光情報を、インターネット等を通してもっと積極的にPRすべきである。

・宿泊施設でのサービスや、島内の人々の親切な対応などに対しては、全体に高評価であった。しかし、英語が全く通じないので、国際観光を視野に入れると、宿泊施設でも英語のわかる人が必要であろう。

・団体旅行ではない個人旅行の外国人にとっては、日本語が話せないと結構大変であろうと感じられた。

・今回の観光ツアーで、評価が高かったのは、佐渡金山と海岸線の美しさであった。その他では、たらい舟や鬼太鼓などの佐渡でしかできない体験であった。

4-2 本研究からの提案

・佐渡観光にとっての今後の大きな可能性は、佐渡の自然や歴史文化のポテンシャルを活かした、体験を中心としたグリーンツーリズムやエコツーリズムへの取り組みである。

・それによって観光客の滞在時間を延ばし、地域の人々と触合う機会を増やし、特定の観光地や観光施設だけでなく、佐渡全体を、安心安全なトキの棲める島として、目標を持ってまちづくりを進めていくことが望まれる。

・島の美しさや素朴さを人工物で壊さないことが大切で、外国人も日本人も佐渡島の独特な歴史風土や美しい自然に惹かれることに変わりはない。

・外国人観光客に対する、案内板やリーフレット類の整備、外国語が話せる案内人の育成などは、優先順序をつけて一つずつ時間がかかっても着実に推進していくことであろう。